

○ナショナルフットボールフィロソフィーとしての Japan's way ※1

JFA は「Japan's way」を 2022 年 7 月に公開しました。すでに確認された方もいると思いますが、「2005 年宣言」※2の実現のために、あらためてサッカー先進国を分析し、「ワールドカップを掲げている日本」であるならこうなっている、という「ありたい日本サッカーの姿」を具体化したものです。

その内容は

1. プロリーグ なぜ Japan's way なのか
2. フットボール・カルチャーの創造 ダブルピラミッド
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けキーステージ
 - ① 成長のキーステージ
 - ② エリートユースのあるべき姿
6. フィジカル・フィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチ
アジアを牽引し、さらにワールドクラスの指導者養成へ！
8. フットボール・ファミリーの拡大からなっています。

この「Japan's way」では「ダブルピラミッド」の考え方が示されました。今までは日本サッカーに参加するサッカーに属する多くのサッカー仲間を前提に、サッカーの育成、目指す先の在り方を日本代

表が頂点となる一つのピラミッドで表わしてきたわけですが、競技として行うサッカー＝選ばれてサッカーをする・プロフェッショナルな頂点をめざすピラミッドと、参加する・楽しむサッカーのピラミッド＝生涯を通じて親しむ、人生を豊かにするためのサッカーへの関わりを表すピラミッドの2つのピラミッドとその重なりで表したのです。この2つのピラミッドの相乗効果 (synergy) により日本にサッカー文化が醸成され、社会にスポーツ文化が根付いていくことを表しています。

※1

https://www.jfa.jp/youth_development/outline/Japans_Way_2022.pdf
Japan's way はこちらから閲覧・ダウンロードできます。

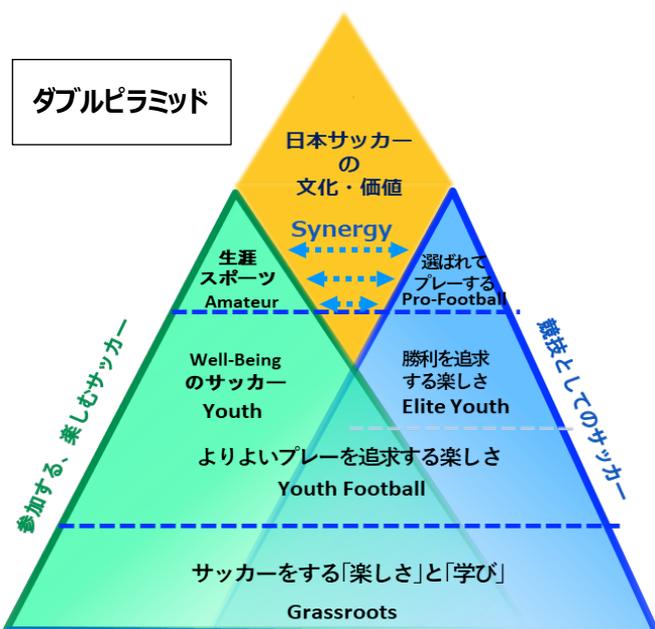
※2

1. 2050 年までに日本でワールドカップを開催し、その大会で日本代表が優勝する、2. サッカーファミリーが 1,000 万人になる

この考え方をサッカー仲間みんなが共有すること、指導者のみならず、選手・プレーする人の家族・保護者が知っていることが大切になっていきます。いろいろな思いをもった選手がいること、その受け皿があることが大事になってきます。試合に勝ちたい、勝ち進んでもっと高みを目指したいという思いで取り組む選手や指導者だけではなく、一方では勝敗にこだわることより、サッカーそのものを楽しみたい選手が活動できる団体や機会も必要であるということです。それを選手が選べる環境が作られていくことこそ、「文化」を作る過程では必要になっていくことをサッカーに関わる全ての人……チーム関係者、指導者、審判、保護者、家族、etc……が理解していくことが大事になっていくのです。

○育成コンセプト「長野スタイル」について

県協会では、NFA のビジョン実現のため、「2020 年宣言」として、2030 年までに実現する 5 つの目標 (1. サッカーファミリー県民の 1 割 2. 県内 4 地区にフットボールセンター整備 3. 長野県代表が全国大会で上位進出 4. 各種大会およびチームにウェルフェアオフィサーの配置 5. 2028 国民スポーツ大会で長野県代表が優勝) を掲げました。新型コロナウイルス感染症の流行と 2020 年宣言発信が重なったこともあり、みなさんへの周知が進まなかった面もありますが、日常活動の再開とともに改めて長野県サッカー関係者がベクトルを合わせていくための目標として理解していただきたいと思います。



長野の目指すサッカー

☆攻守において主導権をにぎる

☆状況に応じた的確に判断によるプレーの選択と実行

☆的確な判断に基づく確実なテクニックの発揮



『HARD WORK』は…

- リアクションではない→意図的に生み出す (アクションサッカー)
- 間髪ではない
→観ること・情報収集からの判断・実行
- 単に量が多いことではない→高い質で連続的・同時に

そして、技術委員会では、「2020年宣言」の＜5.2028 国民スポーツ大会での県代表の優勝＞にむけ、また、＜3. 各種別で県代表が全国上位進出を果たす＞ために、前述の「ナショナルフットボールフィロソフィーとしての Japan's way」もふまえて、育成コンセプト「長野スタイル」を策定しました。これは、長野県が目指すサッカー（ダブルピラミッドの右側、競技としてのサッカーのピラミッドの中での目指すもの）を具体的に示し、そのサッカーを具現化するためにどのような選手に育てていけばよいか、指導にあたるコーチが、どのような視点で分析して選手に関わり働きかけていけばよいかを表したものです。

各カテゴリー（年代）での養成目標を4局面での目的からプレーの原則をふまえて具体化したものです。したがって、長野スタイルを策定したといっても、何ら新しいことを始めるということではありません。サッカーにおいて自チームがボールを保持している時＝攻撃の目的である「ゴールを奪う」・「ボールを保持し続ける」ことと、相手がボールを保持している時＝守備の目的である「ゴールを守る」「ボールを奪う」をふまえ、4局面で選手がどんなプレーが表現できるようになればいいか、選手自身が課題を解決できるようにするため、何

を大切にしていくのか、指導の考え方、目標を具体的に文言に示したものです。サッカーの本質を追求することをふまえて、サッカーの4局面での目的とプレーの原則を表したものです。「長野スタイル」については、県協会HPにも掲載されていますので詳しくはそちらで確認をしてください。

攻守において主導権を握るサッカーを目指すことは、状況に応じた的確な判断から選択したプレーを確実に実行できる選手を育成することです。

「長野スタイル」では、指導者のベクトルをあわせられるようにするため、プレーモデルを示し、年代ごとに積み上げていく柱を示しました。

「長野スタイル」はこれが最終形ではなく、アップデートされていくべきものです。トレセン活動や日常の大会、リーグ全などの取り組みからフィードバックされることを通して、この内容、表現について見直していきます。ぜひ育成年代における取組としてご理解いただきたいと思ひます。

◇FA コーチの役割（その2）

○普及事業

キッズ年代（10歳以下）と女子（15歳以下）のフェスティバルやサッカー活動機会の創出などの取り組みをサポートしています。昨年は「ユニクロサッカーキッズ」が長野県で初めて開催されました。グラスルーツ委員会のみなさんと協働し。事前に関わるスタッフに対してのキッズリーダー講習会の開催や当日のピッチ上の運営・指導を担当しました。また、女子の活動では、なでしこ Japan 国際試合（10月9日 vs ニュージーランド）に合わせたイベント「女子小学生親子サッカー教室」の開催にあたって、事前のキッズリーダー養成や当日のピッチレベルでの指導にあたりました。また、3種委員会・中体連との連携事業である「中体連女子サッカー選手交流会」にも参画しました。

今年もすでに「中体連女子サッカー選手交流会」の1回目を5月21日に行いました。キッズ年代では、7月9日(日)に昨年に引き続きサンプロアルウィンで2回目のユニクロサッカーキッズを開催します。

種別委員会委員や各連盟、団体関係者、審判員や保護者など関わる多くの皆さんの協力によりサッカーとの出会いの機会が創られています。そしてその後も多くの方々のリレーによって、サッカーをしたい子どもたち、女の子たちの活動の場が創られていることを目の当たりにし、改めて感謝の気持ちを強くしています。

長野スタイル 育成コンセプト（プレーモデル）の積み上げ

U-15・16 ゴールを奪う・チャンスをつくる <small>生み出す+開拓する サポートの連続・修正 数的同数・優位を作り出す</small>	U-15・16 奪い返す・態勢を整える <small>プレッシング(奪い返しに行く) リスマネジメント ライコントロール 奪いどころを把握する</small>
U-13・14 ゴールを奪う・チャンスをつくる <small>個で仕掛ける+開拓する サポートの連続・修正 数的同数・優位を作り出す</small>	U-13・14 奪い返す・態勢を整える <small>プレッシング(個で奪い返しに行く) リスマネジメント ライコントロール 奪いどころをわらう</small>
U-11・12 ゴールを奪う <small>個で相手を抜ける+失わない 数的同数・優位を作り出す チャンスと連続させるサポート</small>	U-11・12 すぐに奪い返す <small>プレッシング+相手の自由を奪う 自陣ゴール方向から守る準備 奪いどころをわらう</small>
U-10 ゴールを奪う <small>個で相手を抜ける 個で失わない シュートテクニック</small>	U-10 すぐに奪い返す <small>プレッシング ゴールへ戻る</small>
U-10 しかける(ダブル・ランニング) 失わない 相手を観てプレー	守備 U-10 ボールを奪う・奪いに行く <small>個人で奪う 意識して抜いてける 相手を抜ける</small>
U-11・12 しかける(ダブル・ランニング) ゴールを目指すアクション 失わない+相手を観てプレー	U-11・12 ボールを奪いに行く・前進させない <small>個で奪う+連続して抜いてける カバーリング(相手を守る) ゴールを死守する</small>
U-13・14 しかける+失わない <small>ゴールを目指すアクション ダイナミックプレー ボールを落とさずかせる(保持する)</small>	U-13・14 ボールを奪う・ボールを奪いに行く判断の共有 <small>個で奪う+連続してプレッシング カバーリング(相手を守る) ゴールを死守する</small>
U-15・16 しかける+失わない <small>カウンターアタック タレントプレー プレッシング(ボールを動かす)</small>	U-15・16 アグレッシブ/ボールを奪いに行く <small>判断と共有した意思のプレッシングの連続 中央を締める コンバトブロック ゴールを死守する</small>